

平成 26 年度外部評価報告書

**平成27(2015)年11月
十文字学園女子大学**

はじめに

十文字学園女子大学では、中期目標・中期計画及び年度計画を策定し、これを自己点検・評価の基準として、毎年自己点検・評価を行うこととしています。この点検・評価の結果について、妥当性と客観性を高めるため、大学評価ならびに高等教育の在り方について高い見識をお持ちの産官民学各分野の有識者に外部評価委員へご就任いただき、本学の教育研究及び社会貢献活動全般への助言をいただいています。

平成 26 年度には、大学機関別認証評価を公益財団法人日本高等教育評価機構で受審するにあたり、平成 26 年 5 月 16 日開催の第 3 回外部評価委員会において自己点検評価書の内容について検証及び評価をいただきました。

また、平成 26 年 9 月に文部科学省「大学 COC 事業」に採択されたことにより、「大学改革分科会」及び「COC 分科会」の 2 つの分科会を設けて、COC 事業についても点検・評価を行うことといたしました。そして両分科会を合わせた場合は、外部評価委員会総会として開催することにいたしました。

外部評価委員の方々におかれましては、本学の自己点検評価書ならびにそれに付随する資料の事前点検と外部評価委員会における質疑応答により評価作業に当たっていただいております。いただいたご意見やご提言は、本学の基本理念や使命・目的の更なる実現に向け、今後の教育研究等の改善に役立てる所存です。

最後になりましたが、ご多用にもかかわらず、本学のために労をいとわずご協力いただいた外部評価委員各位に心より感謝申し上げます。

平成 27 年 11 月

十文字学園女子大学
学長 横須賀 薫

目 次

I 外部評価委員名簿

II 平成 26 年度自己点検・評価及び外部評価委員会による評価

1. 平成 26 年度自己点検・評価結果
2. 外部評価委員会による評価

III 参考資料

1. 外部評価委員会規程
2. 第 3 回十文字学園女子大学外部評価委員会議事要旨
3. 第 4 回十文字学園女子大学外部評価委員会（第 1 回総会）議事要旨

I 外部評価委員名簿

【平成 26 年度】

氏名	職名
コヤノ シゲミ 小谷野 茂美	青梅市適応指導教室長 (元 昭島市立清泉中学校長)
ササキ マサミネ 佐々木 正峰	文化財建造物保存技術協会理事長 (本学園顧問、元 文化庁長官)
シブ ヤ ハル ヨシ 渋谷 治美	埼玉大学名誉教授 (元 副学長)
ナカ ムラ テイ ジ 中村 丁次	神奈川県立保健福祉大学 学長
ホリ グチ ヒデア ツグ 堀口 秀嗣	国立教育政策研究所名誉所員 (元 常磐大学副学長・理事)

※50 音順

【平成 27 年度】

氏名	職 名	総会	大学改革 分科会	COC 分科会
ウツミ フサコ 内海 房子	独立行政法人国立女性教育会館 理事長	○		○
カネコ ヒロシ 金子 廣志	新座市教育委員会教育長	○	◎	
カワシマ ケイジ 川島 啓二	九州大学基幹教育院 教授 (国立教育政策研究所 総括客員研究員)	○	○	
キムラ マコト 木村 眞琴	株式会社ニコン 代表取締役会長	○	○	
コヤノ シゲミ 小谷野茂美	青梅市適応指導教室長 (元 昭島市立清泉中学校長)	○	○	
ササキ マサミネ 佐々木正峰	文化財建造物保存技術協会理事長 (本学園顧問、元 文化庁長官)	◎	○	○
シブヤ ハルヨシ 渋谷 治美	放送大学 特任教授 (埼玉学習センター所長) 埼玉大学名誉教授	○	○	◎
スミヨシ ヒロユキ 住吉 廣行	松本大学 学長	○		○
ヤマナ ミワコ 山名美和子	歴史作家	○		○

※50 音順

※大学改革分科会は、平成 27 年 4 月より第 2 期となり、委員委嘱の更新を行った (継続有り)。

II 平成 26 年度自己点検・評価及び外部評価委員会による評価

1. 平成 26 年度自己点検・評価結果（平成 26 年度自己点検・報告書より抜粋）

平成 26 年 3 月、学校法人十文字学園は、平成 26 年度及び平成 27 年度の 2 年間を期間とする中期目標・中期計画を定めた。その中で、十文字学園女子大学は「教育」「入学者受け入れ」「学生支援」「就職支援」「研究」「社会貢献・地域連携」「国際化」の 7 項目からなる中期目標・中期計画を策定した。全体の状況、並びにそれぞれの項目に対する自己評価は以下のとおりである。

(1) 全体の状況と評価

はじめに、平成 26 年度の十文字学園女子大学をめぐる主な状況を報告する。

1 点目は、文部科学省から収容定員関係学則変更の認可を 6 月に受け、また、健康栄養学科、文芸文化学科及び新たな人間福祉学科の設置届出が受理されたことから、平成 27 年度より 1 学部 9 学科、入学定員を 970 名とする体制の準備を整えたことである。

2 点目は、文部科学省の「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」に採択されたことである。本事業ではテーマを「新座市をキャンパスに！+（プラス）となる人づくり、街づくり」とし、本学の立地する埼玉県新座市と全面的に連携協力し、新座市内を『+（プラス）キャンパス』と位置づけ、初年次から段階に応じて、学生、教職員ともに新座市と関わりながら教育と研究を往還させ、自立した課題解決（pro-act）型の学生育成と、活力ある地域社会づくりに貢献することとしている。地域連携推進機構（COC センター）を中心に、教育・研究・社会貢献の 3 領域を中心に事業を推進しているところである。

3 点目は、公益財団法人日本高等教育評価機構で認証評価を受審し、「適合」の認定を受けたことである。全体を通して「改善を要する点」の指摘事項はなかった。

これら諸点については、いずれも順調であった。

(2) 教育

「大学改革実行プラン」等で示されている大学教育改革に関する事項、並びに第 2 次教育体制改革での計画事項、COC 関連事項については、順次対応を行っている状況である。

平成 26 年度から GPA 制度の運用を開始した。これにより、学生が自らの学修の状況を客観的に把握し、各学期の GPA 値を比較することで、学修の成果を振り返ることが可能となり、卒業までの適切な履修計画を立て、主体的な学修をすることが可能となった。さらに、学修時間の確保のため、シラバスに事前学修・事後学修の項目を定め、全科目での記載を徹底した。また、学生による授業アンケートの内容の見直しや、授業アンケートやゼミ選択等で高評価を得ている本学教員を講師とし FD 研修会（授業方法研修会）を開催するなどして授業改善に取り組んだ。また、COC 事業としての実施内容でもある、ポートフォリオやルーブリックの導入準備を進めたところである。

これらから、教育関連事項はおおむね順調と評価できるが、平成 27 年度からの新教育体制では、大学教育力の更なる向上を目指して、これまでの取組を体系的に連携させ、確実な実行が必要となる。認証評価で示した改善・向上方策から、組織役割の明確化と計画立案を行っていく。

(3) 入学者受け入れ

平成 27 年度入試は、入学定員を充足することができなかった。そこで、平成 28 年度入試に向け、入試形態別募集定員の充足率と入学者数の分析や、本学のアドミッションポリシーに沿った選抜方法の実施を検討した。また、オープンキャンパススタッフの意見を取り入れたオープンキャンパスプログラムの改善や適正な募集広報の計画案の策定など翌年度に向けた取り組みを行った。

入学者受け入れに関しては、入学定員状況からやや順調でないという状況である。改善方策として、入試募集全体の戦略策定と実施が急務である。そのため、学生募集戦略室、入試募集関係部署を中心に、取組を開始したところである。入試に関しては、AO入試や推薦入試の高大接続を念頭に置いた多様化や多面的な評価への対応、一般入試では受験機会の向上と早期化への対応を行う予定である。募集に関しては、高校訪問やガイダンス、オープンキャンパス、広報媒体などの見直しを行い、受験生や保護者、高校教員への質の高い大学情報の提供に努める予定である。

(4) 学生支援

学生の自主的・創造的活動を支援するため、「十文字元気プロジェクト」と銘打った事業を平成 26 年度に初めて実施し、公募のうえ 5 件を採択し、5 団体がプロジェクト活動を行った。

また、図書館の機能の見直しを図るべく、図書館利用の実態調査の実施や、図書館活用授業について図書館報での事例を掲載して推進の他、司書課程授業で企業との産学連携の授業を展開した。

学生の経済的支援のためには、平成 26 年度から「古本募金」を開始し、日本私立学校振興・共済事業団の「受配者指定寄付金制度」に登録を行い、ともに実績が挙がっている。

これらより、学生支援はおおむね順調と評価できる。ただし、学生支援に関しては、学生満足度調査などの結果を見ると、課題活動の取組などに関しては、更なる学生の主体的な参加等について課題があるものもある。平成 27 年度は、部署横断型の学生支援連携強化ワーキンググループを設置し、学生支援に必要な事務的課題について、全学的な視点で部署を超えた検討を行い、必要な対策講じる予定である。

(5) 就職支援

知識を活用して問題解決する力（リテラシー）と経験を積むことで身についた行動特性（コンピテンシー）の 2 つの観点でジェネリックスキルを客観的に測定するプログラムを平成 26 年度から導入し、就職指導に活用しはじめた。インターンシップの推進や学内での業界セミナーの開催、企業訪問で収集した情報の学生への提供などによって、就職希望者に対する就職率は、大学 98.1%・短期大学部 95.5%であった。

これらより、就職支援は順調と評価できる。平成 27 年度は、就職活動の時期変更などの影響が懸念材料としてあるが、学生への積極的な情報提供を行っていく。また、教育体制改革に併せて、キャリア教育に関する科目の拡充やポートフォリオを活用した学生指導の充実に努める予定である。併せて、COC 事業の枠組みとして、地域の自治体や企業などとの協議の場を設けることとしている。

(6) 研究

共同研究の推進のため、既設の 7 研究所を人間生活科学研究所と国際栄養食文化健康研究所の 2 研究所に再編することを決定した。また、大学 COC 事業に採択されたことから、これに特化した新たな研究所として地域連携共同研究所の設置を決定した。

なお、科研費の申請件数は 28 件（大学 25 件、短大 3 件）、うち採択件数は 5 件であり、継続採択件数 18 件と合わせて計 23 件となった。

これらより、研究活動はおおむね順調と評価できる。平成 27 年度は、地域連携共同研究所の立ち上げと地域課題解決に向けて、本格的な研究を開始する予定としている。また、研究成果の報告としての大学研究紀要の編集体制の見直しを行い、質の向上に努めることとしている。

(7) 社会貢献・地域連携

文部科学省の大学 COC 事業に採択されたことに伴い、地域志向の教育を推進する事業 11 件、地域の課題を解決する研究 20 件、地域連携を創造・支援する事業 11 件、計 42 件の教育研究活動を行った。また、10 月には地域で活動する NPO 関係者との意見交換会、12 月にはプラスキャンパス連

絡会議を実施した。プラスキャンパス連絡会議には市や教育委員会、警察、商工会、JA あさか野、社会福祉協議会、PTA・保護者会連合会、NPO 法人代表理事らが出席して、新座市との新たな連携事業について意見交換を行った。2月にはCOC事業キックオフシンポジウムを開催し、新座市長、文部科学省より大臣官房審議官を迎え、基調講演とともにパネルディスカッションを行った。会場には新座市をはじめ朝霞市、志木市、清瀬市から地域連絡協議会メンバーも参加し、地域における大学の役割について共有化を図った。

これらより、社会貢献・地域連携については、順調と評価できる。COC事業を柱とした活動を継続して行う予定である。また、地域連携の1つとして、地元高校との連携についても、協議を行う予定である。

(8) 国際化

平成26年度に「十文字学園女子大学語学研修奨学金」を創設し、ハワイ大学13名、北京語言大学2名、計15名の学生が語学研修に参加した。27年2月には協定大学の日本語教員が本学を視察したり、協定高校である重慶第2外国語学校の学生20名が修学旅行中に本学を見学訪問したり、交流の機会が拡大した。また、新たに海外の教育機関4校と交流協定を締結し、在籍留学生は留学生別科70名を含め160名となった。

これらより、国際化についてはおおむね順調と評価できる。平成27年度には、中華女子学院の教職員による視察を行い、交流を深めることとしている。

2. 外部評価委員会による評価

(1) 総括

十文字学園女子大学は、総じて順調であると評価する。

(2) 優れた点及び今後期待する事項

- ・ 科研費の採択数の増や特別研修員制度の活性化並びに研究所の見直しなど研究体制を充実させ、時機に合わせながら組織も変えていることは評価できる。
- ・ COC 事業について、連携協力の関係者から評価されていることで、成功していると評価できる。

(3) 参考意見

- ・ 「おおむね順調に進んでいる」という自己評価における未達成内容に関しては、今後の計画において継続し、完遂することが望まれる。
- ・ 大学の健全な経営のためにも、入学定員未充足学科について原因の究明や対策を講じ、改善計画を確実に進めることが望まれる。
- ・ COC において、地域貢献等の活動に参加した学生の成長についても評価する基準の作成が望まれる。

(4) その他の意見

- ・ 自己評価の実施について、評価の回数を重ねる毎に明確になってきている点で評価する。
- ・ 平成 27 年度より短期大学部を募集停止にしたのは、勇気ある決断である。今後、さらに短大進学者が減少していく状況を鑑みて、早期に手を打ったことは評価する。

Ⅲ 参考資料

1. 外部評価委員会規程

十文字学園女子大学外部評価委員会規程

平成25年9月18日規程第138号

平成25年9月18日制定

平成27年4月1日最終改正

(設置)

第1条 十文字学園女子大学（以下「本学」という）に、十文字学園女子大学大学評価規程第3条第一項第三号及び第10条に定める外部評価を実施する機関として、十文字学園女子大学外部評価委員会（以下「委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 委員会は、本学が実施した自己点検・評価の結果について、妥当性と客観性を高めるため、学外者による検証及び評価を行う他、教員評価や教育研究及び社会貢献活動全般への助言を行う。

(組織)

第3条 委員会は、若干名の委員をもって組織する。

2 委員は本学の設置目的について理解のある学外の学識経験者等から、学長が選考し、委嘱する。

3 学長は、委員を委嘱した場合、委員の氏名・職名等を、速やかに自己評価委員会に通知するとともに、公表する。

4 委員会に、次の分科会を置く。

一 大学改革分科会

二 COC分科会

5 分科会に座長を置き、委員のなかから学長が指名する。

6 学長は必要に応じて、合同分科会（総会）を開催する。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とする。但し、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(外部評価の実施)

第5条 委員は、本学が実施した自己点検・評価の結果を第2条の規定により検証し、優れた点及び改善を要する事項等を意見して、評価を付す。

2 事務局は、前項に定める委員の意見及び評価を外部評価報告書にまとめ、委員会の了承を得なければならない。

3 学長は、前項に定める委員会の了承後、外部評価報告書を自己評価委員会に報告する。

(事務)

第6条 委員会の事務は、企画評価部企画評価課が行う。

(雑則)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、学長が別に定める。

2 各部署が実施した自己点検・評価の結果についての外部評価は、この規程を準用し、部局毎に行う。

(規程の改廃)

第8条 この規程の改廃は、自己評価委員会の議を経て、教授会に報告しなければならない。

附則

- 1 この規程は、平成25年9月18日より施行する。
- 2 第4条の規定にかかわらず、この規程の施行後、最初に委嘱される委員の任期は、平成27年3月31日までとする。

附則

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

2. 外部評価委員会議事要旨

①第3回十文字学園女子大学外部評価委員会 議事要旨

日 時：平成26年11月26日（水）15：30～17：00

場 所：十文字学園女子大学7号館6階教授会会議室

出席者：

（評価員）小谷野委員、佐々木委員（座長）、堀口委員

（本 学）十文字理事長、横須賀学長、志村副学長、増田副学長、岡林副学長

安達副学長、瀬倉副学長、星野地域連携推進機構副機構長、木名瀬総務部長

（陪席者）学科長、事務局部長等

開会・理事長挨拶・学長挨拶・出席者紹介等

1. 第2回外部評価委員会議事録の確認について

佐々木座長から、前回の議事録について確認後、意見等あれば事務局まで申し出ることとなった。（後日の意見等なし）

2. 審議事項

（1）平成25年度外部評価報告書について

安達副学長から、資料2に基づき、外部評価報告書の性格、構成、内容及び今後の取り扱いなどについて説明を行った。

その後、佐々木座長から、委員会として了承が必要なことから、委員からの意見の申し出を12月26日までとし、外部評価委員会としては、各委員からの意見を反映させた外部評価報告書をもって了承とするということによろしいか各委員に確認を行い、そのような手続きを踏むこととされた。（後日の意見等なし）

3. 報告事項

（1）認証評価の現地調査について

瀬倉副学長から、資料3に基づき、認証評価の現地調査の際の主な質問項目、当日の雰囲気及び学生面談の様子並びに認証評価の今後のスケジュールについて報告を行った。

（2）平成26年度年度計画の進捗状況について

安達副学長から、資料4に基づき、平成26年度年度計画について中間のとりまとめを行い、年度途中のため自己評価が△となっている計画があることや、この結果を平成27年度予算編成に反映させる予定としていることなどの報告を行った。

4. 討議事項

（1）本学の最近の動向について

星野地域連携推進機構副機構長から、資料5に基づき、COC事業について本学の推進体制、学内採択事業及び今後の予定などについて説明を行った。

閉会

学長より次期外部評価委員の再任依頼と本日の謝辞が述べられ、事務局から次回は平成27年5月中旬頃開催予定であることなど事務連絡があり、閉会となった。

②第4回十文字学園女子大学外部評価委員会（第1回総会）議事要旨（案）

日 時：平成27年6月10日（水）15：00～17：00

場 所：十文字学園女子大学7号館6階教授会会議室

出席者：59名

〈外部評価委員〉佐々木委員（座長）、内海委員、金子委員、川島委員、木村委員、小谷野委員、
渋谷委員、住吉委員、山名委員

〈法 人〉 十文字理事長、岡林本部長

〈大 学〉 横須賀学長、志村副学長、増田副学長、安達副学長、瀬倉副学長、
星野地域連携推進副機構長、宮川地域連携共同研究所副所長
柳澤総務部長（司会）、佐々木企画評価部長、瀬川企画評価課長、
大熊企画評価課主任

〈陪 席 者〉 学科長、自己点検・評価委員、COC自己点検・評価委員、大学改革室員、
事務局の課長、法人本部員

冒頭、学長から挨拶があり、出席者の紹介を行った。

また、安達副学長より、参考資料に基づき、外部評価及び委員会の位置づけ等について説明があった。

1. 認証評価の結果報告について

安達副学長から、資料1に基づき、平成26年度に公益財団法人日本高等教育評価機構の評価を受審し適合と認定された旨、報告があった。

2. 第3回外部評価委員会議事録の確認について

佐々木座長から、前回の委員会議事録について確認があり、承認された。

3. 平成26年度自己点検評価及び平成27年度計画について

安達副学長から資料3に基づき、平成26年度の自己点検・評価及び平成27年度計画について説明があり、意見交換を行った。

なお、この自己点検・報告書には、当委員会の意見交換の結果を記載して報告書を完成させ、公開する旨の補足があった。

4. 平成26年度COC事業の自己点検・評価について

星野地域連携推進副機構長から、資料3及び資料4に基づき説明があり、意見交換を行った。

5. 本学の学生募集と入学者選抜方法の改革について

時間超過により、何か意見があれば事務局に連絡することとなった。（後日の意見等なし）

事務局から次回は平成27年秋以降の開催予定であることなど事務連絡があり、閉会となった。

以上